

令和4年度川口賞報告書

報告者：金原僚亮 (東京大学大学院理学系研究科附属臨海実験所)

参加国際会議：Cephalopod International Advisory Council 2022 (CIAC)

開催地：ハイブリッド形式 (ポルトガル、セジンプラ及びオンライン参加)

日程：2022年4月2日～8日

発表数：口頭発表 92件, ポスター発表 115件, Keynote speaker 4名

参加報告

私が参加した CIAC は頭足類 (イカ・タコ・オウムガイの仲間) を研究対象とした国際会議である。コロナウイルスの影響で当初は対面で行われる予定がハイブリッド形式に変更になった開催となり、対面とオンライン合わせて 33ヶ国から 267名の研究者が参加して行われた。本会議では行動・分類・生理・気候変動・進化・生態・漁業・飼育その他といった8セッションに分けて順に口頭発表が行われ、その合間にポスターセッションやオープンディスカッションが行われた。残念ながら日本からポルトガルへの渡航は依然として禁止となっていたため、私はオンラインのポスター発表という形で参加した。

メインセッションでは行動や分類など自分の研究分野とは少し離れた内容を含め多岐に亘る分野の発表を聴くことができ、研究対象である頭足類に対して大いに理解と興味を深めることが出来たと感じている。また、日本国内の頭足類研究者は限られている中で、特に進化発生学的な研究をしている海外のラボの研究内容、及び使用される最新技術について知見が得られたのは非常に有意義であった。さらに、頭足類の発生学的な研究をする上で一番の課題である飼育についても、Marine Biological Laboratory (アメリカ、ウッズホール) における頭足類数種の飼育系確立の発表から、国内でも利用可能な種やモデル種選別のポイント等について情報を得られ、とても参考になった。

今大会では、オンライン視聴者の質疑は基本的に CIAC の大会サイトにてチャットをするような形で行われた。現地に行かずとも参加・視聴できることを非常にありがたく感じつつも、リアルタイムでやりとりすることが難しいこと、チャットに気づいてもらえない場合も多いことから、交流する上で大きなハードルを感じたのも事実である。ポスター発表は現地だけでなくオンラインでも常に閲覧・コメント可能な状態になっていたものの、自分のものを含めほとんどのポスターでコメントがつきにくい状態であった。しかし、積極的に他の発表者にコメントを送ったことで大会中に何名かの海外の研究者とチャットで交流ができ、さらに大会後にもメールで研究手法などについてやりとりが出来た。研究手法における細かいコツを知ることができ、海外の研究者との繋がりを構築できたため、学会参加の機会を最大限活かすことが出来たと感じている。

また、開催に先立って2日間のワークショップが行われ、私は "Cephalopod genomics and evolution" のワークショップにオンラインで参加する機会を得た。まだまだ発展途上の頭足類のゲノミクスや機能解析技術に関心のある研究者が集まり、現状と課題について熱い議論が交わされた。*in situ* Hybridization Chain Reaction や single-cell RNA-seq などの技術が海外の多くのラボで実用化されてきていることに驚き、国内で一から実験系を立ち上げている自分がいかに後れを取っているのか痛感した。具体的な手法についても議論を聴くことができたので非常に勉強になり、最先端の技術を実用化しているラボとの交流から強く刺激を受けた。オンラインでの発表はコメントがもらいづらく、コーヒブレイクやセレモニーにも参加できず、交流を深めるにはとても難しい状況ではあった中で、ハイブリッド形式であれどディスカッションが中心のワークショップに参加できたのはとても良い経験になった。

オンラインでの参加とはいえ、ワークショップも含めての国際学会への参加は独立家計の学生にとってはハードルが高いものとなっている。今回の参加に際し援助をいただけたことで、気兼ねなくワークショップ及びメインセッション全日に参加でき、初めての国際会議で様々な海外の研究者と議論をすることでとても実りの多い学会参加となった。この度は貴重な機会をいただきましたこと、故川口四郎先生並びに日本動物学会にこの場を借りて心より感謝申し上げます。